

令和2年度樫友祭(小田高ホームカミングデー)での
小田原理想協会による講演会ご案内

「この列島を引き受けて生きる ～地方創生のための列島回復論～」

～かつて暮らしと仕事の間であった「山水郷」を日本列島回復の拠点にするために～

1. 小田原理想協会とは

小田原理想協会は、1946年(昭和21年)に終戦で戦地から帰還した人たちと小田原中学(現在の小田原高校)卒業生が中心となって、戦後日本の将来をどうすべきかという思いから、勉強会としてスタートいたしました。現在も年4回のペースで例会を続けており、2020年2月例会が第303回となりました。例会参加者は、小田原高校出身者を中心に小田原に関係のあるメンバーや現会員の紹介メンバーなどで構成されています。

今回、小田原高校ホームカミングデーにおいて、第304回の例会を一般公開する講演会を企画いたしました。

2. 講演会のご案内

○今回、2019年10月に発刊され、現在たいへん話題になっている『日本列島回復論』(新潮選書)の著者で、神奈川県二宮町在住の井上岳一さんをゲストスピーカーにお招きし、同書のエッセンスをお話しいたします。また西湘地域の過去・現在・未来についても参加者の方々と意見交換をしていきたいと思っております。

○開催時期と時間、場所、テーマ

2018年5月10日(日) 12時30分～13時50分

ホームカミングデー・小田原高校 3-1 教室 入場無料

12:30～12:40 小田原理想協会の活動案内

12:40～13:50 講演会および質疑応答 テーマ「日本列島回復論」

- ・かつて暮らしと仕事の間であった「山水郷」を再び日本列島回復の拠点にする
- ・第四次産業革命が山水郷を「生きる場」に変える
- ・西湘地域の過去・現在・未来を考える

○スピーカー

☆井上岳一(いのうえ・たけかず)さん

株式会社日本総合研究所 創発戦略センター シニアスペシャリスト

神奈川県出身、1994年東京大学農学部卒業。Yale大学修士(経済学)。林野庁、Cassina IXCを経て、日本総合研究所に入社。森のように多様で持続可能な社会システムの実現をめざし、官民双方の水先案内人としてインキュベーション活動に従事。現在の注力テーマは「ローカルDXによる公共のリノベーション」。主著となる『日本列島回復論』新潮選書(2019年刊)はAmazon・地方分権カテゴリーのベストセラー第1位(2020年2月現在)

3. お問い合わせ先

○布目稔生(ぬのめ としなり) 小田原理想協会・第4代幹事

1985年小田原高校卒 第37期 メールアドレス cex82475@mopera.ne.jp

○小田高創立百二十周年記念樫友祭(けんゆうさい):小田高ホームカミングデー)

<https://odako.info/index.html>